

和歌山だよいい

平成22年
(2010)

5月号



煙樹ヶ浜（美浜町）
左：アメリカ村

CONTENTS

1. 知事メッセージ………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P6
3. お知らせ…………… P7～P15
4. ふるさと歳時記………… P16



やまぶき

「郷土の偉人」

和歌山県の最も基本となる長期計画である「和歌山県長期総合計画」において、教育のあり方は、あまたある政策分野の中で第1番目に書かれています。

私なりに翻案して述べると、和歌山県の教育においては、いい人間を育てる心の教育、確かな学力の賦与、体力の向上・スポーツの振興とともに、郷土教育を重点としようということです。

和歌山は素晴らしい所です。単に気候風土、自然景観が素晴らしいだけでなく、人間力が優れていると思っています。その人間力は、古来人々の営みを通じて、素晴らしい文化と伝統をはぐくんで来ました。多くの歴史的建造物や文化財を擁し、国宝の数だけでも全国6位の地位を占めます。また、さまざまな分野で個性あふれる立派な人物を輩出し、その人々が織りなす躍動的な歴史を残しました。しかし、和歌山県では子どもたちにそのような郷土についての知識を与えて来なかったように思います。最近でこそそうではありませんが、生粋の和歌山人である私も学校で郷土和歌山について教えられた覚えがほとんどありません。知事になって帰って来てから色々勉強し、言葉にならないほど素晴らしい和歌山の歴史と偉人にただ驚嘆しているのです。この辺の知識の欠如が、ともすれば県民の方々が時々口に出される「和歌山らあかな」という考えのもとになっていないでしょうか。子どもたちが郷土に誇りを持って成人してほしいと考えるのです。それがその子どもたちの人間力になっていくと信じているからです。このため、県では「わかやま発見」「わかやま何でも帳」という副読本を作成するほか、特に誇るべき郷土の偉人の顕彰シンポジウムを開いています。昨年の日本人初のノーベル賞受賞者湯川秀樹博士の60周年について、この5月16日には松下幸之助氏の顕彰シンポジウムを和歌山市で開き、10月には華岡青洲生誕250周年記念シンポジウムを紀の川市で行う予定です。和歌山の偉人を見つめなおし、和歌山の偉大さを再発見しましょう。



「わかやま木の家
コンテスト 2009
～あなたが選ぶ紀
州材の家～」での
仁坂知事。
(関連記事 P4)

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

● 松下幸之助翁の知恵に学ぶシンポジウム～企業経営と地域経営のあり方～開催

・5月16日に、和歌山県出身であり、一代で総合家電メーカーを築き上げた松下幸之助翁のひたむきな人生、工夫と創意に富んだ人生、そして、その志を知り、翁の知恵に学ぶシンポジウムを開催しました。

・本シンポジウムは、関西経済連合会が地域間の連携強化を図ることを目的に実施する地域サポーター活動の一環で、和歌山県担当がパナソニック(株)取締役副会長 松下正幸氏であり、平成21年が松下幸之助翁の没後20年であったことなどから開催が実現しました。

・【第1部】では、松下 正幸氏(社)関西経済連合会副会長(パナソニック(株)取締役副会長)と松下政経塾出身の原口 一博 総務大臣が講演を行いました。

・【第2部】では、「松下幸之助が考える企業経営・地域経営のあり方」をテーマに、北康利氏(作家:「同行二人 松下幸之助と歩む旅」著者)、島正博氏(㈱島精機製作所代表取締役社長) 仁坂知事、原口大臣、松下副会長による座談会を行いました。

「松下幸之助翁の生涯」

明治27年、海草郡和佐村(現:和歌山市)に生まれる。父が事業に失敗、9歳で小学校を中退し、大阪へ丁稚奉公に行く。

15歳の時、大阪市内を走る市電を見て新しい時代の到来を感じ、大阪電灯の配線工となる。最年少で検査員に昇格するが、自ら考案した改良ソケットを事業化するために独立、大正7年、「松下電気器具製作所」を創立する。「改良アタッチメントプラグ」や「二股ソケット」が好評を博し、松下電器の礎を築く。

その後、ランプ、アイロン、ラジオと事業を拡大する中、事業の意義に思いを巡らす。昭和7年5月5日、全従業員を集め「世の中に生活必需品を豊富たらしめ、人々の生活の改善と向上を実現することに真の使命がある」との思いを披瀝し、この年を真の使命を知ったという意味で「創業命知元年」と定めた。

戦後、昭和20年代後半から30年代に「三種の神器」と呼ばれたテレビ、冷蔵庫、洗濯機など新しい家電製品を世に送り出して電化ブームを牽引する。海外へも積極的に展開し、「その国の発展に貢献する」という理念のもと、昭和34年のアメリカ松下電器を皮切りに次々と海外会社を設立し、日本企業のグローバル化の先駆けとなる。この間、昭和21年には幸福と繁栄を通じて平和を実現するため、PHP研究所を設立、昭和55年には21世紀のリーダーを育成するべく松下政経塾を開塾、さらに昭和57年に、日本国際賞の創設を目的とした「国際科学技術財団」を発足させる。

人類の繁栄と幸福を願い、企業人の枠を超えた社会活動にも尽力した幸之助は、平成元年、94歳で生涯を閉じた。

* 出典:和歌山県WEBサイト「紀の国の先人たち」一部抜粋

●2010サッカーワールドカップ南アフリカ大会日本代表必勝祈願祭！

・5月9日、熊野三山協議会主催のサッカーワールドカップ日本代表必勝祈願祭が開催されました。日本代表団長の大仁邦彌（だいにくにや）日本サッカー協会副会長と田嶋専務理事、仁坂知事が出席しました。パワースポットとも言われる聖地熊野で熊野三山の正式参拝をし、その後、日本近代サッカーの始祖と言われる中村覚之助氏の墓前で勝利を祈りました。

・本協議会では、1998年のフランス大会から毎回必勝祈願祭を開催しており、日本サッカー協会の正式参拝は2002年の日韓共同開催から数えて3回目。

・【皆さんは、和歌山県とサッカーのゆかりをご存じですか？】

日本サッカー協会のシンボルマークに使われている3本足のからすは、八咫鳥（やたがらす）と呼ばれ、熊野三山では、熊野権現の使いとして崇められている神鳥です。

また、中村覚之助氏のふるさと那智勝浦町です。

・海南市出身の駒野友一さん（現：ジュビロ磐田所属）も南アフリカ大会の日本代表に晴れて選出されました。

・“導きの神鳥”八咫鳥が日本サッカーチームに勝利を導くことを祈念します。

ホームページアドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/fifa/>



●平成22年度「産業別担当者」を発表

・和歌山県では平成22年度「産業別担当者」を発表しました。

・この制度は、県内産業の業種ごとに担当者を割り当て、関係企業等の方々との意見交換を通じて現状や課題を把握し、県の施策立案に活かすとともに、国・県の支援施策の情報を提供するなど、県庁と企業の皆様とのパートナーシップを構築し、相談等の受けやすい体制を整備しようとするものです。

・今年度は担当業種を57業種に拡大し、更にきめ細かい対応が出来るように制度を拡充しました。

・企業等には、それぞれの担当者が出向き、意見交換をお願いしておりますが、企業の皆さんからも各担当者に意見等を積極的にお寄せいただけるよう、県ホームページで担当者名簿を公表しています。

【産業別担当者制度のねらい】

- 「現場主義」の徹底により、迅速・的確に施策を立案・推進します。
- 企業等の課題や行政への要望など、具体的な相談事項等に対し適切に対応できる体制を構築します。
- 「産業別担当者制度」の整備・充実により、和歌山県における企業の事業活動環境向上を図ります。

産業別担当者の名簿は以下に掲載しています。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/060100/sangyotanto/>

●親子ふれあいプレ全国植樹祭を開催！！

- ・ 5月9日、平成23年春季に開催する第62回全国植樹祭開催の1年前記念イベントとして「親子ふれあいプレ全国植樹祭」を田辺市のBig・Uと新庄総合公園で開催しました。
- ・ これは、第62回全国植樹祭に向けて、子ども達に森林の大切さについて理解を深めてもらうとともに、植樹祭の気運を高めていくため開催したものです。
- ・ 県内から215名の親子が参加し、森林や自然の大切さを学ぶ映画を鑑賞し、木の葉の標本づくり、竹ポットへのドングリまきや花植えを行いました。
- ・ また、地元の田辺高等学校美術部により制作された横断幕のお披露目も行われました。



●第62回全国植樹祭に向け、「苗木のスクールステイ」を実施！

- ・ 平成23年春に開催する「第62回全国植樹祭」の開催に向けて、地域会場で植栽する苗木約1万本を県内の小学校で育ててもらい「苗木のスクールステイ」を実施します。
- ・ 「苗木のスクールステイ」とは、苗木を育てることを通じて、子ども達が、緑の大切さと森づくりへの関心を高めてもらうことを目的としています。
- ・ 4月26日、スクールステイに必要な竹ポットやドングリ等キットの輸送のための出発式を県庁正面玄関前で行いました。各小学校までの輸送を、社団法人和歌山県トラック協会（龍田潤三会長）に無償で行っていただきました。
- ・ 「苗木のスクールステイ」により、子どもたちが環境問題への関心を深めることを大いに期待するとともに、全国植樹祭への気運を盛り上げていきます。



●阪和自動車道海南 IC～有田 IC 間の白浜方面（下り 2 車線化）の完成

・阪和自動車道「海南 IC～有田 IC 間」では 4 車線化に向けた整備が進められてきました。7 月 16 日から、新たに整備した白浜方面への下り線を 2 車線で利用できるようになります。

・この区間は休日を中心に慢性的に大渋滞が発生。対面通行による衝突事故などが頻発していることから、県では、早期 4 車線化の整備を訴えてきました。その結果、7 月の夏休み前に、下り線の 2 車線完成を行うことができました。

・平成 23 年の夏頃には、有田 IC まですべて 4 車線化します。



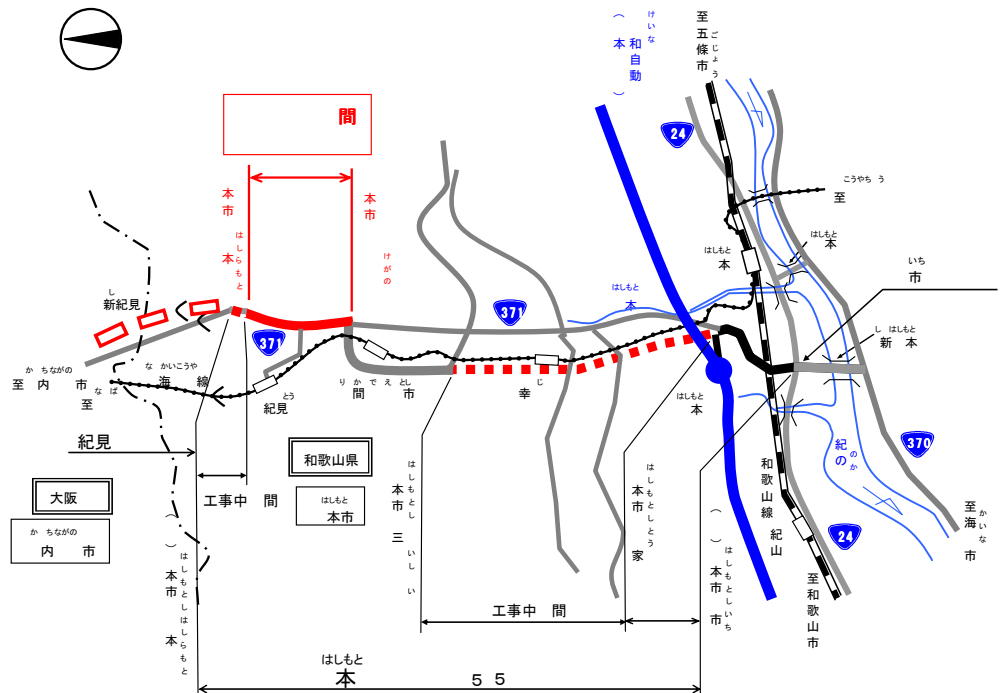
●国道 371 号「橋本バイパス」の一部供用開始

・4 月 28 日、橋本市の紀見トンネル付近から慶賀野橋東詰交差点までの約 1 km の区間が 4 車線で供用されました。

・国道 371 号は、和歌山県と大阪府を結ぶ府県間道路として、京奈和自動車道と近畿の一体的発展に寄与する重要な路線です。

・4 月 22 日には、「国道 371 号バイパス建設促進協議会」（会長：橋本市長）が、仁坂知事とともに、大阪側も和歌山側と歩調を合わせて早く建設を行うよう、橋下大阪府知事に対して協力の要請を行いました。

・今後、平成 25 年度に全線での 4 車線供用を図るため、大阪府と協力して取り組んでいきます。



●「和歌山×JAL×ミシュラン タイアップ」 和歌山・世界遺産の魅力発信プロジェクト始動

・和歌山県と日本航空、ミシュラン社のタイアップにより、「高野山」・「熊野」の価値と魅力を広く情報発信するプロジェクトが始動しました。

（主な活動）

- ・JAL 国内線機内誌『SKYWARD』へ、高野・熊野スポットリチャールスポットの記事掲載
- ・国内線機内番組『スカイスクエア』の制作・放映により、和歌山県が誇る「高野山」・「熊野」の見所を紹介
- ・インターネットの活用により、JAL ホームページ『JAL 旅したい』を通じて「高野山」・「熊野」の魅力や「プレミア和歌山」をはじめとした県産品等を紹介
- ・JAL ツアーズからは「高野山」や「熊野」への旅行商品『ミシュラン・グリーンガイド・ジャパンの旅』がweb専用で販売されます。



●設計のシンプル化などによる更なるコスト縮減

・和歌山県では、着実に社会資本を整備する必要があるとともに、今後老朽化する社会資本の急増が予想される中、将来の維持管理・更新費用の増大に対応することが急務となっています。

・これまでは、使用する材料に汎用品を使うなど、主として工事施工段階において、工法や材料により可能な限りコスト縮減に取り組んできました。

・今後、更なるコスト縮減に取り組むため、基本に立ち返り、県の地形・地理的条件を考慮したり、長期的に使える構造やシンプルな構造の施設とすることなどをコンセプトにとりまとめた「公共土木施設の設計についての運用指針（案）」（以下運用指針（案）という。）を策定しました。

・このことにより、施工・維持管理を見通したトータルコストの縮減が可能となります。

・今般、この「運用指針（案）」を各機関に通知しました。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/081100/sekei/sekkeishinpuruka.pdf>

●「わかやま木の家コンテスト 2009 ～あなたが選ぶ紀州材の家～」開催

・和歌山県では、紀州材の良さをPRし、住宅での需要拡大を図るため、平成21年度に初めて「わかやま木の家コンテスト 2009」を開催しました。

・県内各地から51作品の応募がありました。「自分が住みたいと思う家」に投票してもらい、受賞者を次のとおり決定しました。4月23日、知事室にて表彰式を行いました。

◆最優秀賞

作品名：「陽だまりの家」（左写真）

受賞者：中村伸吾建築設計室 代表 中村伸吾（田辺市）

◆優秀賞

作品名：「白浜の白い家」

受賞者：きごころ工房夢家中村工務店 代表 中村昌弘（すさみ町）

◆優秀賞

作品名：「井ノロの家（紀州材に魅せられる家）」

受賞者：宮脇康起設計事務所（海南市）、高椿礎生一建築設計事務所（富山市）

詳細は、下記アドレスにてご覧いただけます。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070600/kishuzai/03jutaku/wakayamakinoiecontest2009.html>

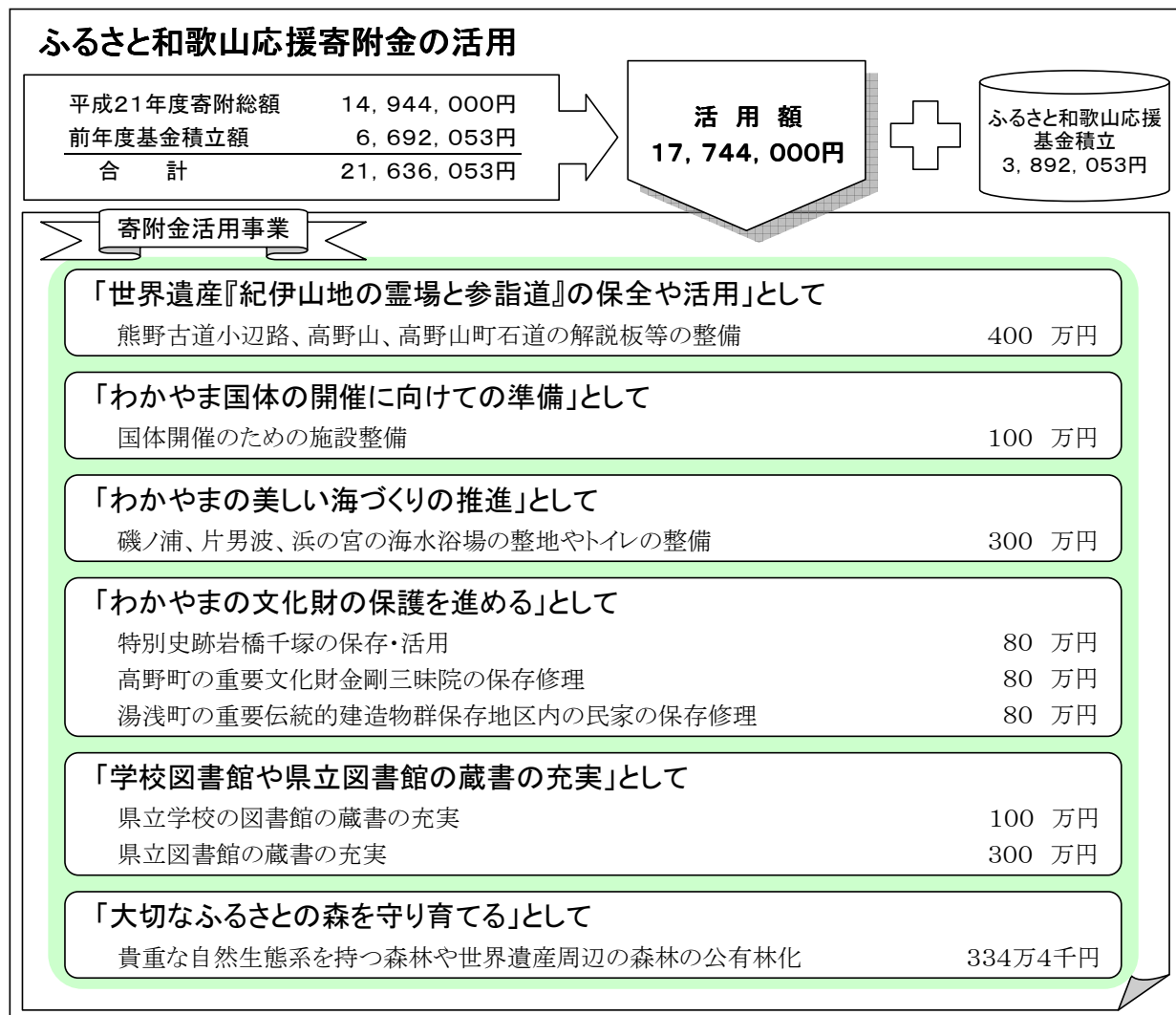


ふるさと和歌山応援寄附のお礼とご案内

ふるさと和歌山応援寄附の取組に多数の皆様のご理解とご賛同をいただき誠にありがとうございます。

お陰をもちまして、平成21年度は106人の方から1,494万4千円の暖かいご寄附をいただきました。また、心温まる力強い応援のメッセージも多数いただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金は、次のとおり活用させていただきましたのでご報告申し上げます。



和歌山県では平成23年春に全国植樹祭の開催を控えており、この「ふるさと和歌山応援寄附」のメニューにも新たに「わかやま植樹祭に向けての準備」を加えました。

また、「わかやま国体」につきましても平成27年の開催に向けて着々と準備を進めております。

この他の上記の施策も強力に推進しますので、本年も引き続き、ふるさと和歌山応援寄附を通じて和歌山県を応援していただきますようお願い申し上げます。

寄附金税制のことなど詳しくは和歌山県ホームページの「ふるさと和歌山応援サイト」をご覧ください。また、「ふるさと和歌山応援サイト」では、寄附申出時に公表に同意していただいた方のお名前や応援メッセージを掲載していますので、ぜひご覧ください。

○ふるさと和歌山応援サイト（URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>）

「和歌山県観光実施行動計画振興アクション・プログラム2010」 を策定しました！

和歌山県観光振興実施行動計画 ＝アクションプログラム2010＝

～本県の持つ魅力を最大限に生かし『観光立県和歌山』の実現を目指します～

◆ アクションプログラム2010の概要 ◆

1 8つの魅力で和歌山を売り出す

①世界遺産

＜JAL×ミシュランタイアップ＞

日本航空国内線の機内番組や機内誌等で、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン掲載の「高野山」(三つ星)と「熊野三山」(二つ星)を特集し、外国人からも高く評価された「高野山・熊野三山」の価値と魅力を紹介

＜新スタンプを活用したPR＞

熊野古道中辺路・大辺路、高野山町石道に設置したすべてのスタンプを押印した方に「和歌山三参詣道完全踏破証明書」と記念品を贈呈することを広くPRし、誘客促進

＜「高野・熊野夢舞台」コンサート＞

著名なアーティストのコンサートをマスコミとの連携のもと開催し、魅力を広く発信

②温泉 ＜各温泉地の特色ある魅力の創出とPR＞

(例)白浜のクエ・フラダンス、勝浦の町歩き・体験観光新メニュー、龍神美人湯の全日本男子バレーボールチームの愛称「龍神NIPPON」の活用PR など

③ほんまもん体験／田舎暮らし

着地型エージェント養成講座の開催などほんまもん体験を活用した着地型旅行商品開発を支援するとともに、体験インストラクターや語り部の育成など受入体制の整備を促進

④歴史・浪漫 ＜平城京遷都1300年祭の活用＞

平城京への遷都を行った聖武天皇の母・宮子姫が日高地方出身であることから、同地方の観光地としてのイメージアップと誘客促進
・平城遷都1300年祭イベント出展、宮子姫ゆかりの地ツアー商品化
・宮子姫ゆかりの道成寺における宮子姫を演目とした舞踊公演実施

⑤四季折々の魅力 ＜フィルムコミッション推進＝映像を通じた魅力の発信＞

⑥食の魅力 ＜県内各地の食の魅力発信・向上＞

各地の特産品等を利用した名物料理(ご当地イチ押しメニュー)を地域と共に選定し、全県分をまとめて広く情報発信。地域ならではの料理店・土産物店の拡充、出店支援

⑦自然の素晴らしさ ＜海の魅力PRと高まる人気の自転車活用＞

ラムサール条約登録5周年を迎えるサンゴ群落の串本の美しい海のPR

・新パンフレットの作成、東京におけるイベント出展等

地域との協働で観光素材を取り入れたサイクリングコースの設定・PR

・実施地域：紀の川市、西牟婁地方

⑧ブランド ＜観光キャンペーン等における「プレミア和歌山」商品活用による認知度向上＞



2 和歌山へ招く

①首都圏から

〈マスコミ主催イベントへの出展〉 時期:7月 場所:港区白金台

首都圏の女性が集まるイベント「シティプレミアムナイト2010(仮称)」への出展

〈旅行会社現地視察ツアーの実施〉

- ・南海電鉄との共催による高野～熊野ツアー
- ・女性をターゲットにした観光素材の紹介ツアー

〈マスコミ&旅行会社連携キャンペーン〉

特定の時期に集中して複数のPR活動を展開

- ・山手線ADトレイン(1編成)による観光PR
- ・23区内鉄道沿線における観光物産イベント
- ・旅行会社の駅前店舗における和歌山商品販売キャンペーン

〈羽田～南紀白浜便の利用促進〉

日本航空とタイアップした首都圏における路線のPRと旅行商品の造成・販売促進



②近畿圏・東海圏から

〈鉄道会社とのタイアップ〉

- ・アクセスバス「語り部付 熊野古道号」

鉄道利用者にとって課題となっている駅からの2次アクセスを改善し、初心者でも気軽に古道ウォークが楽しめるバスの運行をPR

〈期間〉平成22年4月～11月(土・日・祝運行予定)

〈区間〉白浜温泉から紀伊田辺駅～熊野古道中辺路～熊野本宮大社(予定)

- ・JR和歌山線と和歌山電鉄との連携

JR和歌山線と和歌山電鉄貴志川線とを周遊する事業を企画し、歴史ある社寺やフルーツ狩りなど沿線の魅力を発信

- ・九州中国地方からの誘客

JR九州新幹線全通を控え、「九州新幹線～山陽新幹線～紀勢本線」と乗り継ぐことで本県を訪れやすいことを都市部を中心にPR

〈マスコミ・エージェント対策〉

- ・旬の素材、人気の素材をマスコミに取り上げてもらえるよう、随時の情報発信と臨機応変なアテンドを実施

(例) 有田川鉄道公園(有田川町)、漁船クルーズ(由良町、田辺市)など

- ・平城遷都1300年祭など大規模な催事から本県への誘客促進

③海外から ～国別の嗜好傾向や旅行熟度に合わせた誘客活動の強化～

〈成熟市場〉 本県と近隣府県との観光資源を組み合わせた新たな広域観光ツアーの造成と売り込み

- ・台湾＝WEBを活用した新たな客層への情報発信、教育旅行・インセンティブツアーの誘致
- ・香港＝個人旅行者をターゲットにしたプロモーション
- ・韓国＝体験メニュー等を取り入れた新たなツアー造成の促進、視察・研修旅行等の誘致

〈途上市場〉 JNTOや近畿府県等と連携した多様なプロモーションの展開

- ・中国＝富裕層の多い北京や上海、観光交流促進関係にある山東省等をターゲットに、上海万博等と連動したプロモーションの展開
- ・フランス＝ミシュランの★★★評価を獲得した高野山人気の一層の拡大
- ・イタリア＝高野町とアッシジ市による文化・観光相互促進協定の締結を踏まえた現地プロモーション

＜これからの市場＞ 認知度向上の促進

- ・タイ、シンガポール、オーストラリア

＝関西広域機構等との連携によるメディアを活用した露出拡大及び旅行商品の造成促進

＜海外プロモーション手法の充実＞

- ・県内観光事業者と連携した具体的な旅行プランの提案

＜WEBの整備と充実＞

- ・個人客や小グループ等への情報発信力の強化

④テーマ別に

＜「わかやま〇旅」プロジェクト＞

多様化する個人の旅行ニーズに対応するため、本県の魅力が十分発揮できるテーマごとに旅のモデルコースを「わかやま〇(まる)旅」として提案し、webサイト等を活用したPRをはじめ、マスコミや旅行会社等に対し情報発信

○歩き旅

まち歩きや紀伊万葉ウォークなど、バラエティに富んだ歩き旅を提案

(例)湯浅、御坊寺内町、黒江、勝浦・新宮等でのまち歩き

和歌浦、加太など万葉集で詠まれた紀伊万葉ゆかりの地ウォーク

○姫旅

女性が思わず行きたくなるようなモデルコースを提案

(例)パワー スポット巡り、縁結び旅、歴女旅、アート旅

○いきもの旅

県内各地の様々な生き物を訪ね、ふれあい、癒される旅を提案

(例)自然博物館、アドベンチャーワールド、くじらの博物館

ドルフィンスイミング、ホエールウォッチング

○お宝旅

和歌山観光で思い出に残る旅、お気に入りのスポットを訪ねる旅などを「私のお宝旅」

としてコースやその魅力等を公募し、ホームページ等で紹介

＜修学旅行の誘致活動＞

各受入地域と連携し、全県をあげて新たな誘致活動を展開

・和歌山県体験型教育旅行誘致協議会により、スクールキャラバン等を実施

・県外から学校関係者を招き、体験型修学旅行研究全国大会(仮称)を開催

＜ターゲットごとの効果的な誘客活動＞

・スポーツ合宿の窓口である大学生協へのプロモーション、ファムトリップ

・きのくに信用金庫との連携でセミナーを開催、各信用金庫年金担当者を和歌山に招聘
年金旅行誘致に向け各信用金庫をセールスコール



3 和歌山でもてなす

①県民総参加による観光振興の推進 『観光週間記念事業』

- ・県民ぐるみのおもてなしキャンペーンの実施

オープニングセレモニー、おもてなし協力店・家の設置、宿泊客への特産品プレゼント

②おもてなし向上への機運醸成

- ・観光セミナー、カリスマ講座開催

③接客第1線のおもてなし力向上

- ・『和歌山のおもてなし』ノウハウ集作成

・接客基礎コース、専門コース、リーダー研修など多彩なメニューにより接客能力を向上

・観光施設での覆面調査、課題を研修に反映

・外国人観光客受け入れのためのアドバイザーを派遣

・紀州語り部、体験インストラクター研修会の実施

④快適なトイレ環境の実現、観光案内板・解説板の多言語化



「和歌山県農林水産物・加工食品の販売促進アクションプログラム2010」
を策定しました！

～「わかやま産」の国内外への販路開拓・消費拡大～

I 国内対策

1 「わかやま産」ブランドの向上

産地間競争が激化するなか、安定的に消費者の支持を得るには、ブランドの確立が不可欠です。高品質なものづくりを進める産地や生産者と協働し、「わかやま産」ブランドの向上に取り組みます。首都圏等大消費地では、一般消費者向け大規模イベントへの参加や有名百貨店へのわかやまフェアの提案などのプロモーションを展開します。昨年は、'09食博大阪や東京ドームで開催されたふるさと祭り東京にも出展しました。



'09 食博覧会・大阪



ふるさと祭り東京

また、東京有楽町のアンテナショップわかやま喜集館からの情報発信をはじめ、広報活動を強化し、テレビ、新聞、雑誌等々、各種マスコミに積極的に話題提供を行うとともに、本年度は特に成長を続ける駅ナカ（大消費地ターミナル駅）に注目し、トップセールスなどわかやま産のPRの場として活用できるよう、取り組んでいきます。

そのほか、これまでも大手メーカーとのタイアップによるわかやま産食材を用いた飲料やお菓子の販売、ご当地スイーツ「わかやまポンチ」の取組、プレミアム和歌山のPRなども一層充実させてまいります。



わかやま喜集館



わかやまポンチ

※1 わかやまポンチ … フルーツ王国ならではの強みを活かしたご当地スイーツ。必ず県産梅を使用すること等の条件が設定されている。昨年、全国わかやまポンチ協会が設立され、わかやまポンチ登録店も拡大中。

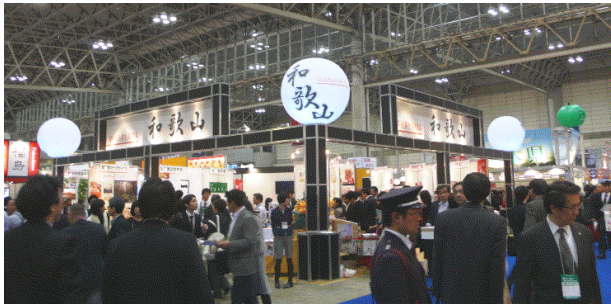
※2 プレミア和歌山 … 和歌山県の新しい優良県産品推奨制度。現在 321 品目が認定され、わかやま産品のフラッグシップとして各種見本市、物産展などでPR中。

お知らせ

2 販路開拓

新たなビジネス展開を目指す生産者を支援するため、企業（バイヤー）への商品紹介や情報発信する機会を積極的に提供してまいります。まず最初にご紹介するのが、FOODEX JAPANです。国内外の食品関係事業者やバイヤーが参加するアジア・環太平洋地域で最大規模の国際食品・飲料展示会に和歌山県では3年連続、自治体としては最大規模での出展を続けています。これまで、のべ79社が本県のブースに参加し、約2000社との商談を行いました。

次に、わかやま産品商談会 in 大阪の取組です。これは本県にとって物流コストやスピードで優位性の高い関西地域で、県内生産者を各種流通・小売等の企業に紹介するための取組みで、本年度で5回目を迎えます。こちらはのべ375社の生産者が参加しました。いずれの機会も経験を重ねることにより、生産者にとって有効な商談機会となっています。



FOODEX JAPAN2010



わかやま産品商談会 IN 大阪

また、小売業界、流通業界、通販、外食産業等への提案活動を引き続き行い、バイヤーを産地に招へいしたり、百貨店や量販店等でのわかやまフェアの開催なども行ってまいります。量販店等で開催する各種フェアでは生産者は直接、消費者に自社製品をPRできるほか、消費者からの評価を得る貴重な機会となっています。



松坂屋本店



湯浅町フェア（ジャスコ日根野店）

そのほか、開設から10年目を迎えるインターネットショッピングモールふるさと和歌山わいわい市場 (<http://www.wakayamaken.jp/>) は、県外の皆様が手軽に県産品を購入できる有効な機会になっています。

Ⅱ 海外市場開拓

1 海外市場へのトライアル

縮小傾向の国内市場に対し、世界的な日本食の広がり、アジア諸国の経済発展などを背景に、中国・上海市では常設販売ブースを引き続き設置するほか、パリで開催される国際見本市SIAL2010にも出展します。

また、海外百貨店でのわかやまフェアを継続開催し、わかやま産ブランドの向上を目指

すとともに、今年度は新たに現地量販店とのタイアップによる果実販売プロモーションも開催し、現地での販売数量の増大を図るなど海外への販路開拓を一層促進します。



上海ヤマト常設販売ブース



国際見本市ANUGA2009（ケルン）



フェアの様子（シンガポール）

2 商品と市場のマッチング

県産品の輸出チャンスを拡大するため、有望市場国への輸出元・輸入元バイヤーを招へいし、商談会や産地視察を実施するとともに、今年度は県内事業者が初めて海外に渡航して現地で商談会の開催を強化します。

3 輸出体制の強化

県内生産者の海外への販路開拓を支援するため、先進事例を紹介するセミナーを開催するほか、中国・台湾での商標監視、輸出用ロゴマークの活用、新たな販促資材の作成などわかやまブランドの確立をめざします。



海外での商談会（香港）



ミニのぼりの活用



輸出用ロゴマーク

Ⅲ 推進基盤の強化と農産加工を軸にしたアグリビジネス構築

販売促進の取組みを一層効果的なものとするため、J A、J F、食品産業協議会、農業生産法人協会等との連携の強化を図るとともに、「新農林水産業戦略プロジェクト※」との呼応、県内各地での物産振興とも連携しながら、各地域の製品の販路開拓、消費拡大、新たな加工品づくりへの支援を行ってまいります。



アジアカエビ（海草地方）



紀の川市フェア（那賀地方）



有田みかん（有田地方）

※新農林水産業戦略プロジェクト 県内各地域の品目ごとの課題に対し、生産・加工・流通対策、販売対策の総合的な取組を支援。H21年度より県農林水産部が丸で取組んでいます。

わかやま産品販路開拓アクションプログラム2010」を策定しました！
和歌山県工業製品の販売促進戦略
～ものづくり王国「和歌山」を世界に～

1 直接的な販路展開を推進（販売の場の提供）

(1) 海外販売戦略

海外販路開拓へのきっかけ、方法を求める企業の方々のために、優れた技術・製品を海外でPRする機会を提供し、輸出促進に取り組みます。

① 業界・出展地域を絞り込んだ専門的な展示会への集団出展

- ・ ニューヨーク国際ギフトフェア（アメリカ）への出展
- ・ ケルン国際家具見本市（ドイツ）への出展
- ・ 中国市場に向けた展示会への出展

② 海外専門展示会への出展支援

- ・ 海外販路に新たに挑戦する県内企業の取組を促進するため、例えば、エレクトロニカ（国際電子部品・コンポーネント専門見本市／ドイツ）、SEMICON West（半導体製造装置・材料の国際見本市／アメリカ）といった、海外の専門展示会への出展を支援

③ 海外での商談会への参加・海外バイヤーの招聘

- ・ 中国山東省商談会や欧州向けテキスタイル輸出展示商談会への参加
- ・ ライフスタイル製品展示商談会の開催

④ 輸出促進セミナーの開催

- ・ 輸出に関連した海外ビジネスセミナーや講座を開催し、最新情報と必要なノウハウを県内企業に提供

⑤ 海外進出への相談体制の充実

- ・ 海外ビジネスに精通した専門アドバイザーによる相談体制を充実し、輸出に取り組む県内企業を支援

(2) 国内販売戦略

著名な国内展示会への集団出展支援や関係機関と連携した県外での展示商談会の開催などの販路開拓活動を行い、企業振興を進めます。

① 展示商談会の開催

- ・ 大企業へ出向いた展示商談会の開催
- ・ ものづくりの盛んな地域での展示商談会の開催
- ・ わかやま産品商談会や取引情報交換面談会の開催
- ・ 産地組合の展示会開催などの自主的な取組を推進

② 専門的な国内展示会への出展

- ・ 出展する業界、業種を絞り込んだ国内の著名な展示会への集団出展を支援
- ・ 県内産地組合等の国内専門展示会出展などの取組を支援

- ・県内企業の専門的な展示会への出展を支援

③県内企業の情報発信

- ・インターネットを活用した県内企業の情報発信
- ・受発注情報の収集・提供による取引支援

2 プレミア和歌山の販促強化

(1) プレミア和歌山のブランド力確立

和歌山らしさ・和歌山ならではの視点で選定した「プレミアム和歌山」のブランド力を確立するため、県の情報誌をはじめ、あらゆる広報ツールの活用や展示会等への出展により、全国・全世界にその存在をアピールします。

(2) プレミア和歌山の販売力強化と攻勢作戦

インターネット・テレビ通販会社とのタイアップ、企業誘致活動時のセールスなどの推奨品の知名度高める取組や積極的に推奨品を活用してもらえる県内外の企業・団体による「プレミアム和歌山応援団」の醸成などで販売力を強化します。

(3) プレミア和歌山認定事業者の「地力アップ作戦」

専門家派遣事業や新産業育成支援補助金などの本県支援策を活用して、プレミアム和歌山認定事業者の「地力アップ作戦」を展開します。

3 売れる商品づくり

(1) 新技術の創造

和歌山県新技術創出推進条例に基づく「和歌山県産業技術基本計画」で定めた、①加工・組立技術分野、②化学・ナノテクノロジー分野、③医療福祉、バイオ・食品分野、④エネルギー・環境分野の重点4分野において、産学官の連携による研究プロジェクトの促進により「新たな技術」を創出し、それらを活用した新技術・新製品の開発及び販路開拓、販売促進を支援します。

(2) 新製品研究開発支援

県内企業や産学官連携による研究開発を支援し、新商品・新技術の創出を促進し、売れる商品づくりを支援します。

(3) 民間専門人材の派遣

民間人材を活用した各マネージャーや中小企業診断士・先進企業OB等の専門家を派遣し、県内企業の各種相談に対応します。

(4) 知的財産の活用支援

中小企業者等の知的財産に対する意識の高揚を図るとともに、高付加価値商品を生み出す技術、デザイン等の知的財産の活用を支援します。

(5) 国の支援施策の情報提供

売れる商品づくり、販路開拓に係る「国の支援施策」の情報提供を行い、その活用を促進します。

* 産業別担当者制度と一体となって積極的な情報の収集・提供等に努めるとともに、「わかやま産業交流サロン」事業や産学官連携などから生まれてくる新たな事業のシーズやニーズを踏まえ、事業内容の検討や見直しを行いつつ、本プログラムの推進に全力で取り組んでいきます。

～ 煙樹ヶ浜・ヨハネスクヌッセン機関長・アメリカ村（美浜町） ～

煙樹ヶ浜

・美浜町にある長さ4.6キロメートルの大松林。幅は広いところで約500メートル。近畿最大の規模の煙樹ヶ浜の松林。町の人々が「自慢できるもの」としてあげるその美しい景観は、煙樹海岸県立自然公園になっています。「煙樹ヶ浜」という名はいつから？……それは大正末年に、この地を訪れた近藤浩一路画伯が、絵に描いたことから始まったといわれています。松林の形成はいつ頃？……については、明らかではありません。1619年頃、紀州初代藩主 徳川頼宣公の時代には、「御留山（おとめやま）」として、すでに伐採が禁じられ、保護されていて、その後も土地の人々に守られてきたことで今も見事な景観を保っています。紀伊半島で一番西に突き出た岬にある日の岬灯台から煙樹ヶ浜が一望できます。

ヨハネスクヌッセン機関長

・昭和32年2月のことです。神戸港に向かっていたデンマーク船エレン・マースク号は、午後9時頃に日ノ御埼灯台の沖合で火災を起こしている高砂丸（徳島県の木材運搬船）を見ました。当時、海は大荒れ。救命ボートが近づけなかったため、綱をつけたブイが投げられ、それをたぐり救助されていました。しかし力尽きて、高砂丸の船員が海中へ転落。その時助けようと海に飛び込んだのが、デンマーク船のヨハネス・クヌッセン機関長でした。荒れている海に機関長のみ込まれていってしまいましたが、異国の地での勇気を称え、日ノ岬パークの一角に顕彰碑と胸像が建てられ「クヌッセンの丘」と名付けられました。毎年2月には、慰霊献花式が行われています。

・平成14年に2002FIFAワールドカップのデンマーク代表チームのキャンプ地として和歌山県が選ばれたことで、クヌッセン機関長の遺徳を偲び、交流をしています。

アメリカ村（アメリカ村資料館）

・大正期より「アメリカ村」と呼ばれていた三尾村（現美浜町三尾）。江戸時代に関東に出漁に出ていた三尾村の人々は漁場争いが起こったことから、海外へ行くことを考えました。経済的な理由だけでなく、紀南県民のもつ海によって生きてきた海洋的な発展的県民性といわれるおおらかに強く進んでいく気持ちと「連れもていこら」の精神でカナダに三尾村を成立。昭和15年にはカナダにおける三尾村出身者は2,000人以上で三尾語が標準語と言われました。美浜町にはその時代の思い出の生活資料を中心に展示している「アメリカ村資料館」もあります。

美浜町ホームページ <http://www.town.mihama.wakayama.jp/>

～編集後記～

暦の上では立夏を過ぎました。和歌山の山々も新緑がほんとうに素晴らしい季節を迎えました。今春は、気温が非常に低い日が続きましたが、ゴールデンウィーク期間中は晴れた日に恵まれ、一転夏の到来を思わせる暑さとなりました。

さて、今月号では「和歌山県観光振興実施行動計画アクションプログラム2010」、「和歌山県農水産物・加工品の販売促進戦略アクションプログラム2010」、「わかやま産品販路開拓アクションプログラム2010」を紹介させていただきました。また、先月号では「農業緊急戦略アクションプログラム」、「和歌山県産業技術基本計画」を紹介させていただきました。

平成20年に仁坂知事が、和歌山県が「めざす将来像」とそのための施策の基本的方向を明らかにした「和歌山県長期総合計画」を策定しました。その長期総合計画に盛り込まれた「将来像に向けた取組」で示された種々の施策のこれまでの実績を検証しながら、今後進めていく重点施策や進むべき方向、目標を具体的かつ明確化していくものが、これらのアクションプログラム等です。

私達県の職員は、それらのプログラム等に掲げられた目標の達成に向けて、それぞれが取り組んでいる事業の進捗状況のチェックを怠らず、積極的に行動（アクション）していかなければなりません。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。



2010年（平成22年）5月 NO.26

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022